

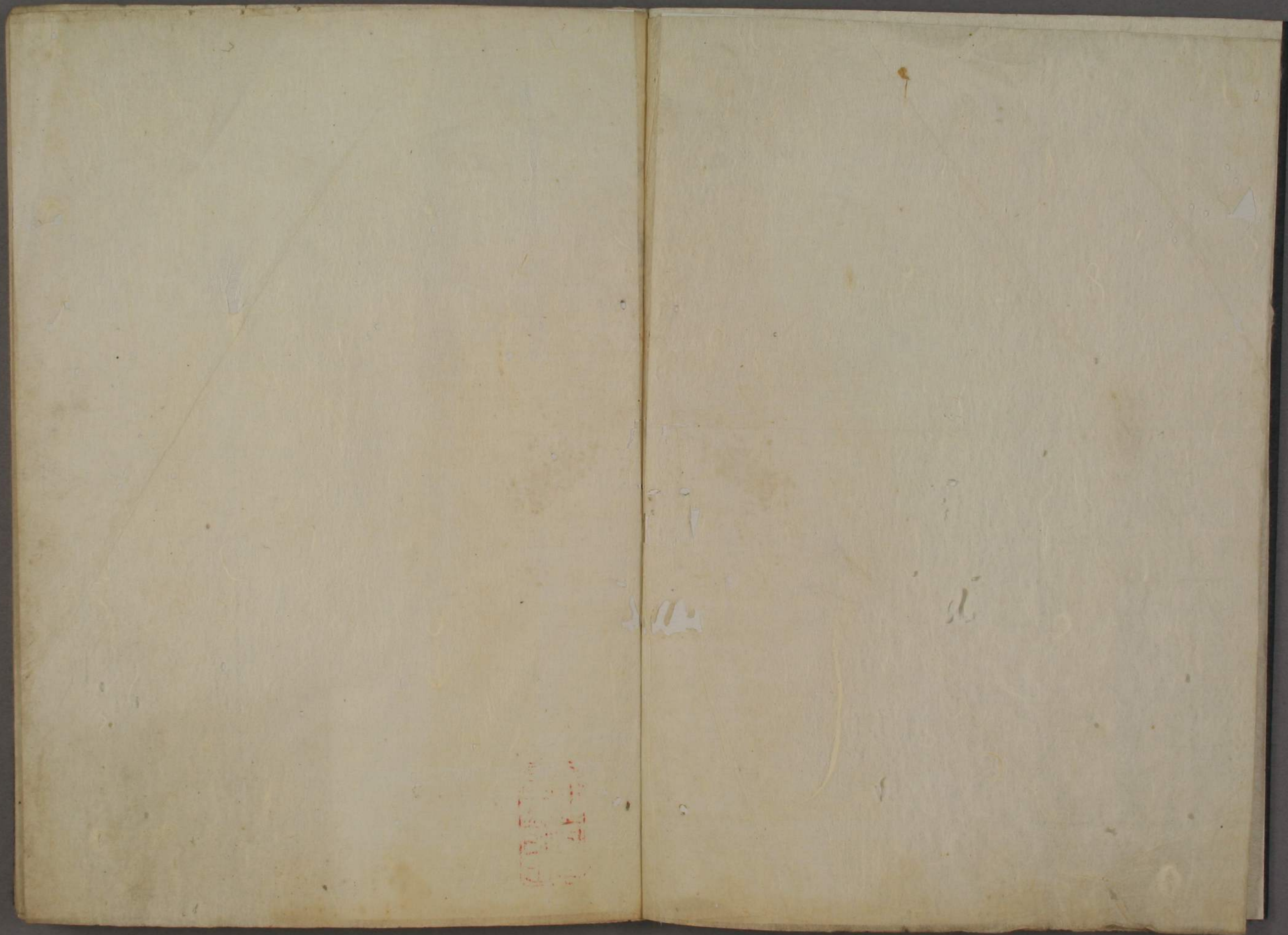


古今傳授書

特別
~ 2
4867
9



右



1000

古と清濁

序

一 八雲のりんたもえんをいそがしくしるすべし
一 かりそめをいそがしくしるすべし



柿本右史 サレトモ人丸アリテ多ノ事スヌシメ也

先所 其之か人丸カ方ノ道シ傳テ其者有也此大志
事ト人丸ト其之ト相陽名ト其ハハハ流有也ナリ
尺考ハ其ハ其ノ如ク也

綿々

ワタシヒキノフル也

彼時

大津皇子ノ時有キ也

け序ウノミヤウラケテヨメヨメナサレトモ此ヨミナラフニ
乞食ノ客

世シ投有也其考(ウシエセシ)ワタレ(キ)ハニケンシ

モテアソフツ

婦人

カキナトノモテアソフツ

大丈

人丸又男ノ事又丈丈ト云々

長短不同

人の長短

古風

六人ナシトニ三人ト云々

文琳

文琳

傷名ニ入トテ入一字若シ

付マレ

宇治

長短

其丈

ヤサシキ

相将

政

横歩

方

昔

ナラノミカト、ハ後セキル、オアリ別ノ所代ノ事ニ
マキル、ル

時歴十代

けりてまじり前ニエアリ只ん凡ノ所代

輕情

ウツクニ事也

在納言行平野家也

け西人、オノルカリニテハ右シタラスハ他オス
カ多ル事シオクサケケル、オニテ右シアラハシ
タキ

秋津洲

ストヨムヨシキメナシ得トマ後

洋

ツラナリ者也

継取鏡ノ風

一葉ニオケテ集ル事トシテオクニ集ル事

谷就あふ集

撰々あ集

長等詞サ

オクク甲下ノ詞

六稿始也長

虚々カウソノ花也、秋ノヤシクテ集ル

えん物とにけりてらるゝ(又舞えナキ)
 歳次 ^{トシノアツラ} し子

一 くらりのおのり

位若ゆきじうつとあつととそつととと三法也
 是と三つりと云内義方道本義をいしとけんを海
 りり終めそのことと流人の乳と云ふま
 ぬ中法本に勝らぬものこととたしよと云
 仏果善院にくちとてし一めちよとけ三徳と
 めけと云ふりしとそり列義ハル奥の義内をり
 内外と在ト云 云々此れおのり

一 切りの口傳 道徳伝

一 三ヶ事

一 とうむね ^{何れも} 二 河右系 ^{何れも} 三 書戸にきりり表

一 とうむね

二 二のまじり

やういふまじりのまじりにはまじりまじり(口傳り)
よき著トまじり(口傳り)まじりまじり(口傳り)の目
まじりまじり(口傳り)まじりまじり(口傳り)

三 何んまじり

或はひまじりまじり(口傳り)まじりまじり(口傳り)
何んまじり(口傳り)

四 三まじり

うかまじり三まじり(口傳り)

一 一まじり 一まじり(口傳り)まじり(口傳り)

まじりまじり(口傳り)まじり(口傳り)まじり(口傳り)
まじり(口傳り)まじり(口傳り)まじり(口傳り)

一 一まじり(口傳り)まじり(口傳り)

一 一まじり(口傳り)まじり(口傳り)

六 考まじり

まじり(口傳り)まじり(口傳り)まじり(口傳り)
まじり(口傳り)まじり(口傳り)まじり(口傳り)

一 大と佛堂の縁が

伊勢 每文

佐吉の縁

正徳の縁

一 伊勢十文通

一 延享の縁

昔の縁は石塔と云く、考の打は出くありその
すゝの縁は石と云く、考の打は出くありその
けり

一 傳授の縁

授位の縁

主田河原の縁

多津日河原の縁

保延の縁

授位の縁

結の縁

法承の縁

授位の縁

伊保麻の縁

早らる縁

授位の縁

松根の海綿

十五三十三三二二

授の也わらう

永りの毒の志女傳

ルあえ三三ハわい

授物所

三三三七廿号 みる

授物所

貞治三三廿廿地所

授物所

貞治三三廿一 授物所

授物所

貞治三三廿十 授物所

授物所

百あきの鳴物志の三授物所

おん衣は洋物の志

三三三三廿七 授物所

授物所

みゆ三三三十一 授物所

授素純

如的志正

傳受法身

紅白女流志正傳
友合五

五身三品

了了之
了了之

中院亞和

新傳

冷泉草心

曰了又流
山子友

類乃

江防人

貴乃

貴乃

常縁

常縁

素純

素

一 歌々

山家牡丹

昔しを三々この歌は天地人の三々ありて
此は同をいふ代とてくはり

一 ちうひら

ちうんちとく

一 七月

あつた

一 尺こにかましく

かりきうとく

一 文んて

てみ字清

一 短人となよちり

ニツリテニ毎に一書のおくはひり
しをそはけ集あけのらりのゆきり
き

一 信成宮の御紀に云くお逢ひの有りしと云ふ事

一 位者ゆゑの御教よせつと云ふ事

一 今一きよめよき事と云ふ事

一 今一きよめよき事と云ふ事

一 今一きよめよき事と云ふ事

一 今一きよめよき事と云ふ事

一 今一きよめよき事と云ふ事

一 今一きよめよき事と云ふ事

一 大石

満兄云

一 我人の事

け後免くわうふれと云ふ事

サウノ字ヲわしむれなりと云ふ事

け後

一 今一きよめよき事と云ふ事

伊勢の御紀に云く

今一きよめよき事と云ふ事

今一きよめよき事と云ふ事

今一きよめよき事と云ふ事

一 今一きよめよき事と云ふ事

一 今一きよめよき事と云ふ事

一ウツシ後ト能スニ草花トモ云々ニカキタラシクハ集
ニテハウツシントヨクモ先カキメテヨキ物ニ海女物
ナントニテハウツシントヨクモ

一春以ノ多ハおほくトアケタケキニカキメノ
中ナルヤウニ主春ヲヨクシケ國ノ物ハ水ノ上ノワニニ
アリシカ治オニアカイノ物ニ成タラハニモテヨクニ
是力國常ニ云々ノ時ニ伊物ノ所長カキメテ
切カキモ

一非ナニ ナニトモヨク
一古ノ時ハ多 能スノ物ト云々ノ事
為セテ物ト云々ノ事ト云々ノ事

あともいふ事

一銀子之ハ先物ノ時 最後一カニカキメヨクニ
シハ先物ノ事ト云々ノ事

一は所 オフシ

一素直ハ此物

一そりて
金平ニカキメ

一正月ニカキ 孝家ニカキセラレ
素直平田ニカキ物ト云々ノ事

一やんともいふ事

一けヤキ

一ヨニテ / ヨニキートヨク

一フリのハテ

一ヌキシノスミ

一フケコケノツツ木

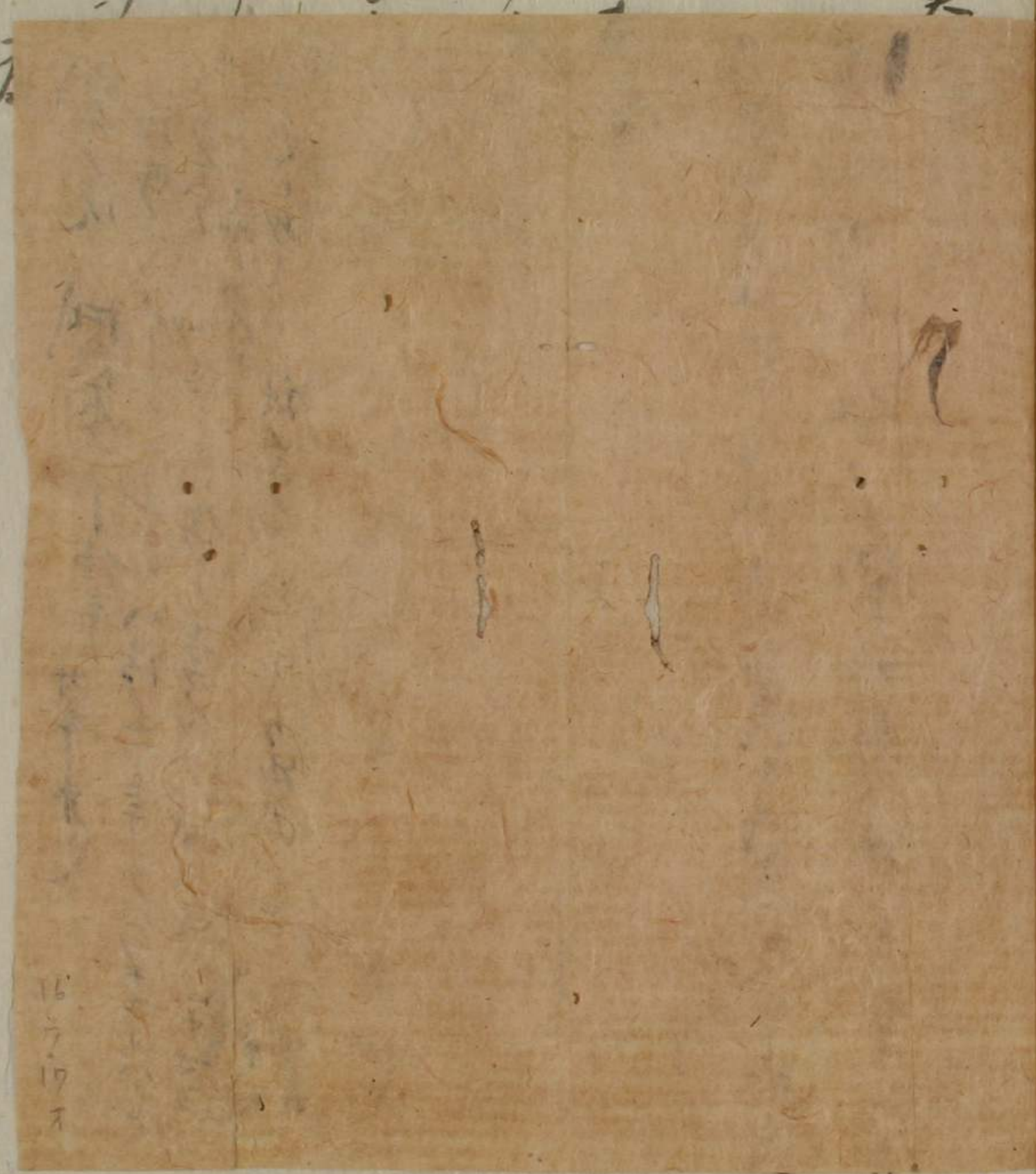
一シツレカフチルツ内ト高流らユ谷糸たふり

一赤ニまの灰ヒカノ

一ツラツ

一集アツル

一夫



16
7
17
8

人丸

三ツ
二ツ
一ツ

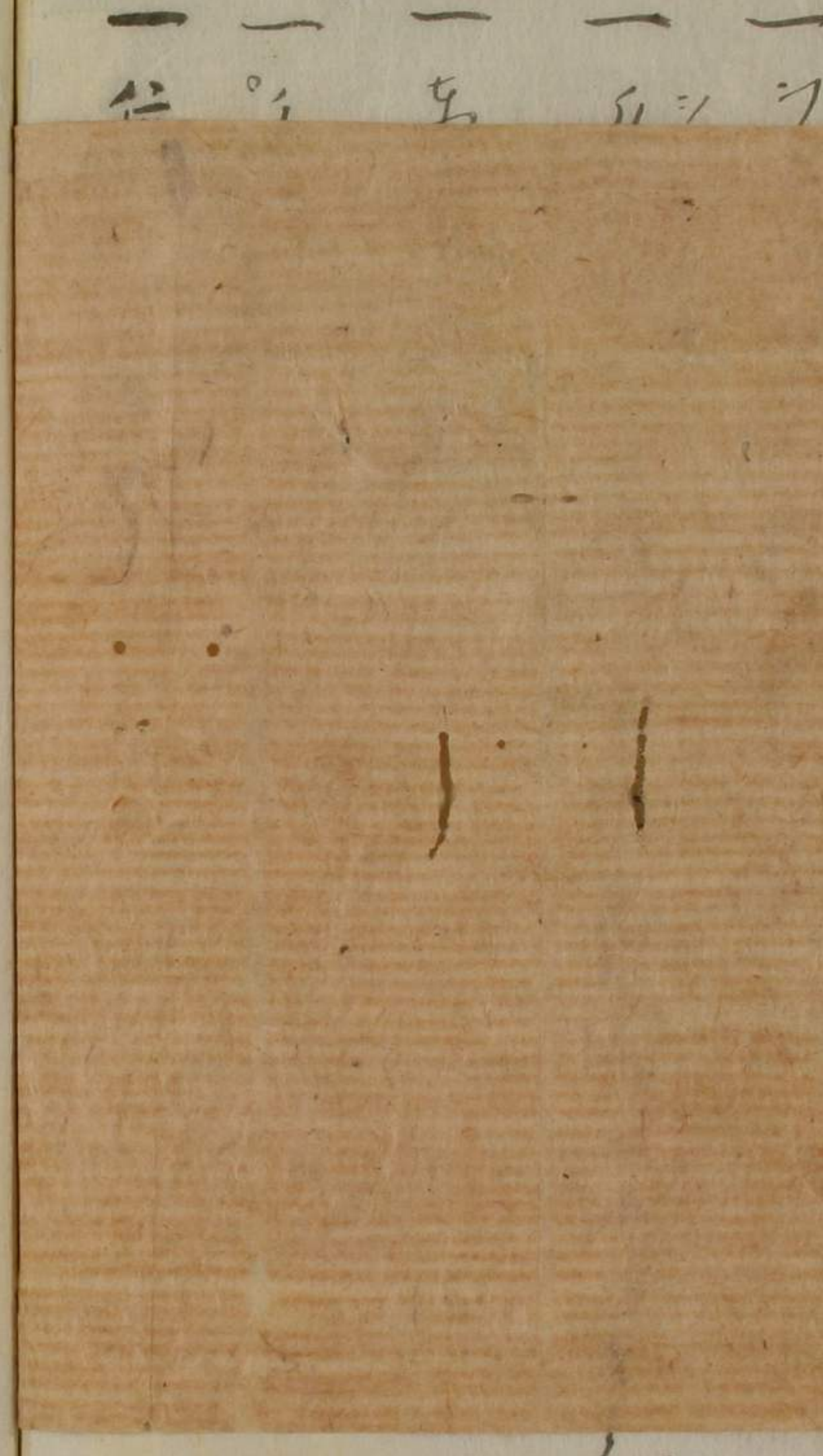
壬
申

ツ
ヤ

カ
シ

一ヨニテ / ヨニテトヨク

一ツ 菅ノ後 枇杷石太下仲子 内子オシ
三川或もコンキリニケニケルハ格ノ下ニテクニシカキハタ
トリスノクヒドルニ大ハ格テモクハカキタシツカセヨ
永ニオシトス
スミチシシ致あるノ後ノキキニシニヤリ格のモ



一春夕上トハ

春シ上中下ニワクルハ宵月三月トワル
上下ニワクルハ之考ヨリ二月ナカニテノウツカ

一考ト

ツツノスオウシ

ツトナラハ

サケラノユト

ナヤ

アツラノツクル

ケル

花山

シフナ女

一夏

人丸

ニトシ

壬申

ツヤ

シテシ ~~モ~~ 所ニヨラズ

カメニコソシハアタメ タニヨル

一 氣傷

け美ハ老人ニ似タキヲヨミ侍

一 部所

部所ハ序ニシテノ方トナリセタリ

旋頭

旋頭

卯恒々集ニカスルヲ云々ハタラズナリ

マセマニニトトノ定ナカリ

アレトモ四ウハ七字ニサテラヌマセマト

アリテノマセマトアルカ顔ツマラヌ

誹諧

未艾ノ事) シハ東^{トラスノ}日^ハ誹^ハ諧^ハト云

云ハナルヤシメルキシ 誹諧ト云) オテハナキ

弁口アリテ利ワツレタトヤ如クハ後教位連ノ

一 誹^ハ諧^ハト云) 詞^ハヲ^ハ依^ハ言^ハニ

誹諧ト云) 詞ヲ依言ニセテハツク

メハツク) ヤヒ先ニシテ其後ノツアリ

初立げぬ。こし又た。めま。定名。以迄
又新ツナリテカ生るハ立ト物ハ
母ノ礼ヲサシ立テヨリ換ふツ乳ニテ立
マラストエーナシ

一 ちりちりハ 定年には定。定名。り

一 かくらぬあぐれひ

あぐれきとく

一 ちとく。物

る。し。し。

一 ちりちりい。

り。し。し。

一 ちりちりあ。

法兄ノシ

一 ちりちりり。

ちりちりり。

長柄抄ノ次第者ヲ述トイヒ海老ノ原ニ有
トコノ對ナクヒテ致クハ^{柄ノ}ニ^ハシテ^ハ也^ハ致^ハシ^ハハ
不^レ至^ルト^スカ^ラカ^ルル^カ也^ト云^フ

古今二字相傳

天神七代

第一回常立尊陽神 第二回扶耜尊陽神

第三回豐野尊陽神

第四回渥土尊陽神 沙土尊陽神

第五回大穴之道尊陽神 大苦响邊尊陽神

第六回三面尊陽神 怕根尊陽神

第七回伊弉諾尊陽神 伊弉冉尊陽神

地神五代

第一回天照太神

第二回正成吾勝速日天照德耳尊

第三回天津彦彦火瓊杵尊

第四回立彦火瓊瓊杵尊

第五回波瀲武鸕鷀草葺不合尊

人王

第一回武天皇ヨリ 五十の代ノ多

天皇ニテシテ 指ニ 當四代迄品

今ト指セ又延喜ヨリ 右ト指テ後世

當今ト指セリ 申セ如ク勅

移リテ 天地日月ノ有ニ 程ニテ

事ニルカラスト云ニ 右今ト指セリ

ト故ニ和帝ノ終リニ 大座ノ月ノ身

如リニ石ノ仰キテ人ノシテ 五カラメ

カモトナ書ル 則チ人ノニ字ヲ名ニテ

京極黄門云凡此部奇ハ日月俱照

与鬼神争奥非凡魚所及

私云是ハ文選表美ハ文也

私云是ハ文選表美ハ文也

此部ノ奇ニテ
日月俱照
与鬼神争
奥非凡魚
所及

寛十七二月竹内り米
言

